

「奈良県のくらし」令和7年版

令和7年(2025)3月31日 初版発行 日本文教出版

「奈良県のくらし」令和7年度版は、地域の特性や文化を学び、児童が地元への理解と愛着を深めることを目的に作成されています。内容は、奈良県の歴史、自然、産業、文化財などを網羅し、地域の魅力を多角的に紹介しています。さらに、デジタル教材との連携や教師用指導書の充実により、学習効果を高める工夫がされています。(2次元コードを使用)

～もくじ～

- 1) 私たちの奈良県
- 2) 健康な暮らしを支える 水・ごみ
- 3) 自然災害から人々を守る 大和川大水害
- 4)暮らしの中に伝わる願いと地域の発展に尽くした人々
- 5) 私たちの住んでいる地域



山林の開発 樹喜王・土倉庄三郎と林業

川上村は雨が多く長い間吉野杉をりっぱに育ててきた。木材を運ぶのに「いかだ流し」で川を利用していたが吉野川は川幅が狭く流れも急だった。庄三郎は密集して杉の苗を植え、育つ過程で間引きを繰り返し、太さが同じで真直ぐな杉をそだてる「土倉式造林法」を考案した。また、筏流しの水路の岸の岩を削り、川幅を広げ、川底をさらって整備した。

木を運ぶ道も荷車が通るように広げた(土倉古道)。

現在の国道169号線にあたる「東熊野街道」をつくり、吉野山地と平地を結んだ。

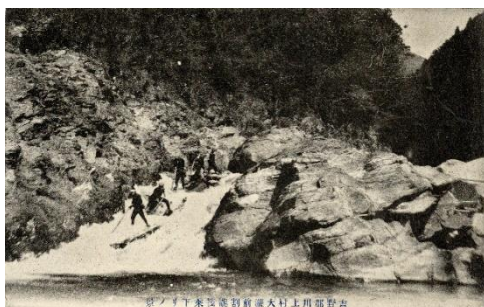
小学校、大学(同志社大学)などを作るのに協力し教育育成に努めた。

筏(いかだ)流し

山から木材を運び出すようす



川上村大滝に、筏が流れるように岩を砕いて造った水路



写真提供：成瀬匡章氏(奈良県立図書館今昔写真WEB蔵)